

国家試験合格に向けた自己理解と学習動機の関係性の検討

大内 善広 ・ 岩田 泉 ・ 山崎香保里

【要旨】

本研究は、社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験に向けた学習者の学習状況について、自己理解や学習動機を中心に検討した。学習動機の検討には、市川（1993）の「2 要因モデル」を用いた。このモデルでは、学習動機を学習内容の重要性と賞罰の直接性の2つの要因で構造化している。学習動機が自己理解にどのように関係しているのかについて分析し、学習内容の重要性を志向した学習動機を持つ学習者は、より自己理解を行う傾向が見られた。また、合格者・不合格者で学習動機が異なるかどうかを検討し、合格者は不合格者よりも学習内容の重要性を志向した学習動機を強く持つことが示された。このことから、国家試験に向けた学習において、学習内容の重要性を志向した学習動機を持つことの重要性が示唆された。

キーワード：自己制御学習、学習動機の2 要因モデル、自己理解、国家試験

1. 目的

福祉系大学教育では、社会福祉士や精神保健福祉士の資格取得のための国家試験対策を行っている所が多く、筆者らの大学においても国家試験対策の取組みが行われている。国家試験は、共通科目（午前）と専門科目（午後）の試験に分かれ、共通科目は11科目、専門科目は社会福祉士が8科目、精神保健福祉士が5科目で行われる。合格には、問題の総得点の60%を基準として、問題の難易度で修正された点数以上の得点を取り、かつ全試験科目において得点を取る必要がある。その国家試験への具体的な対策として、対策講座や自主学習グループ勉強会（スタディ21）による積み上げ方式の対策を実施している。そうした国家試験対策の軸となるのが、模擬試験の実施である。現在、年8回にわたり模擬試験を実施しており、その結果については、問題領域ごとに毎回自己採点を行い、教員と学生が試験結果を持ち帰り、その後の学習に活用される。試験結果は福祉教育センターで共通科目と専門科目の得点を集計し、模擬試験を受験した全学生分のデータが教員連絡会にて教員間で共有され、その後の指導に活かされている。また、ゼミ教員や自主学習グループ勉強会を活用し、教員と学生が一緒になって振り返りを行う取組みも実施している。この模擬試験によって、中・短期的な学習目標が立てやすくなり、学習成果の振り返りによる自己理解が容易となる効果が期待できる。しかし、模擬試験の結果をうまく活用できず、自己理解を行うことができていない学習者も存在すると考えられる。

こうした学習者は、国家試験に向けた学習計画を効果的に立てることができず、学習の効率が低くなってしまいう可能性がある。

このような国家試験に向けた学習のあり方について示唆を与えるモデルに、自己制御学習 (Zimmerman, 2004) が挙げられる。自己制御学習では、効果的な学習を自分で学習の計画や目標を管理しながら学習を遂行し、学習成果の評価に基づいて柔軟に活動を調整していく循環的過程としてとらえている (Figure 1)。計画の段階では、自己効力や課題への興味・価値、目標志向性といった要因に支えられて、目標を設定し学習方略を計画していく。遂行の段階では、自ら学習に取り組み、また自分がどのような学習に取り組んでいるのかを考えながら実際の学習を進めていく。評価の段階では、計画の段階で設定された学習目標を達成できていたかを検討したり、学習方法が効果的であったかを考えたりする。つまり、先述のような学習状況に関する自己理解がうまく行えない学習者は、このような良い循環的過程によって学習できず、結果として国家試験に合格することが難しくなってしまう。

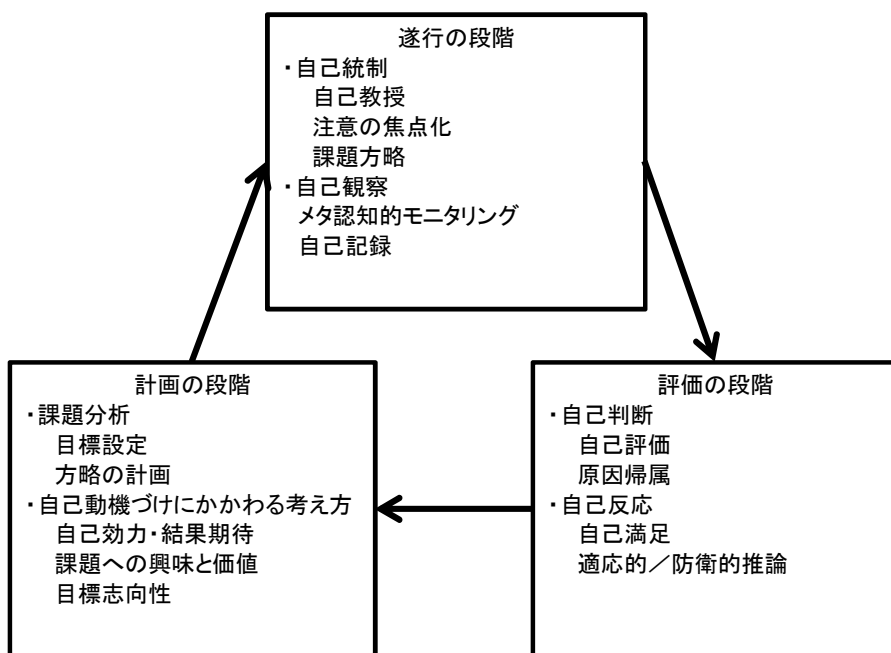


Figure 1 自己制御学習のモデル

こうした自己理解に影響を与える要因として、学習動機が重要であると考えられる。特に、学習動機の志向性について、市川 (1993) では学習動機の「2 要因モデル」を提唱している。このモデルでは、(1) 充実志向 (知的好奇心や向上心のための学習)、(2) 訓練志向 (能力を高めるための学習)、(3) 実用志向 (仕事や生活に役立つ知識や技能を得るための学習)、(4) 関係志向 (友達や先生等の他者につられた学習)、(5) 自尊志向 (他者にほめられるための学習)、(6) 報酬志向 (物質的報酬や出世等のための学習) の 6 つに学習動機が分類され、2 つの要因で構造化されている。構造化の際の 1

つの要因は学習内容の重要性であり、もう1つの要因は賞罰の直接性である。それぞれの要因をどの程度重視しているのかによって、いずれかの学習動機に分けられる (Figure 2)。

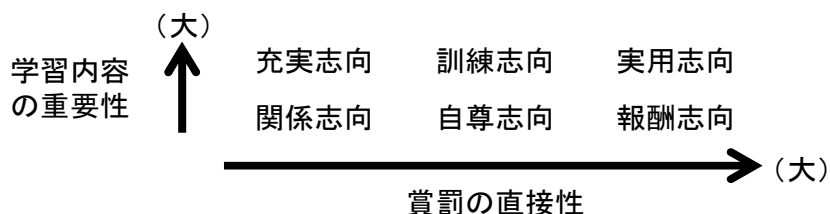


Figure 2 学習動機の2要因モデル

例えば、充実志向、訓練志向、実用志向は学習内容の重要性に関わった学習動機であり、関係志向、自尊志向、報酬志向といった学習内容の重要性に関わらない学習動機となる。このような学習動機は、学習の能動性や主体性に影響し、自己制御学習を効果的に行えるかどうかに関係することが予想される。

本研究では、自己理解と学習動機に着目し、国家試験を受験する学生の学習状況の自己理解と学習動機の関係性について検討を行う。その上で、国家試験の合格・不合格別に自己理解や学習動機の状態を検討し、どのような自己理解や学習動機が望ましいのかを明らかにしていく。

2. 方法

2. 1. 調査計画

国家試験に向けた学習の自己理解の状況や学習動機を測定するために、国家試験の受験者の中で調査への協力が得られた大学4年生19名を対象に質問紙調査を行った。使用した尺度は、以下の3尺度である。

国家試験に向けた学習状況尺度 国家試験に向けた日常的な学習状況について、自己理解を中心に15項目の質問を作成した。「5:非常にあてはまる」から「1:全くあてはまらない」の5件法にて回答を求めた。

成績管理システムによるフィードバックの活用状況尺度 本研究では自己理解を促進するために成績管理システム(詳細は、次節にて述べる)を構築し、そのシステムによるフィードバックを行った。このフィードバックを国家試験に向けた学習に活用している状況について、9項目の質問を作成した。「5:非常にあてはまる」から「1:全くあてはまらない」の5件法にて回答を求めた。

学習動機尺度 市川(1993)の学習動機志向性尺度を使用した。この尺度は36項目の質問で構成され、充実志向、訓練志向、実用志向、関係志向、自尊志向、報酬志向の6因子を測定する。1因子につき6項目の質問が割り当てられている。質問項目は学習する理由が書かれており、その理由に対して「5:共感する」から「1:共感できない」の5件法にて回答を求めた。

この質問紙調査は7月、9月、11月、2月にそれぞれ行い、計4回実施した。なお、2月については、国家試験受験後の時期の調査となったため、質問項目は全て過去形で表記した。被調査者の負担軽減の観点から、調査実施時期により測定していない尺度もある。各時期で測定した項目は以下の通りである。

7月：国家試験に向けた学習状況、学習動機

9月：国家試験に向けた学習状況、成績管理システムによるフィードバックの活用状況

11月：国家試験に向けた学習状況、学習動機、成績管理システムによるフィードバックの活用状況

2月：国家試験に向けた学習状況、学習動機、成績管理システムによるフィードバックの活用状況

2. 2. 成績管理システム

成績管理システムでは、レーダーチャートと棒グラフの2種類のフィードバックシートを用意した。レーダーチャートのフィードバックシート (Figure 3) には、今回の模擬試験の結果 (正答率、正答数/設問数)、前回の模擬試験の結果 (正答率)、今回の模擬試験結果の学内平均 (正答率)、前回の模擬試験結果と比較して正答率が大きく低下した科目、今回までで正答率が一定数以上になったことがない科目について表示した。これにより、その回の模擬試験までに行った国家試験に向けた学習についての振り返りを行いやすくなり、また、今後の学習計画を立てる際に重点的に学習すべき内容についての検討が行いやすくなる効果が期待できる。また、棒グラフのフィードバックシート (Figure 4) には、それまでの全模擬試験結果の正答率の推移を表示した。また、棒グラフのフィードバックシートは共通科目と専門科目に分けて作成した。これにより、これまでに行った学習の成果を確認し、長期的な学習計画を検討できるようになることが期待できる。

このような成績管理システムによる模擬試験結果をまとめた個人の成績のフィードバックシートについては印刷し、各学生に配布した。学生はその配布したフィードバックシートをまとめ、随時自己理解を深める材料として利用できるようにし、セルフモニタリングを促進させた。また、学習の足跡を振り返らせ自信を高めるために、適宜学習の様子を撮影したものを印刷・配布した。

模擬試験は4月、6月、8月、9月、10月 (2回)、12月、1月に行われ、その都度成績管理システムに各学生の模擬試験結果を入力し、フィードバックシートの作成および全体的な成績傾向についての分析を行った。なお、フィードバックシートの配布は、2回目の模擬試験以降の模擬試験終了直後の自主学習グループ勉強会時に行われた。ただし、6月の模擬試験結果については、成績管理システムの構築が完了していなかったため7月に行われた。

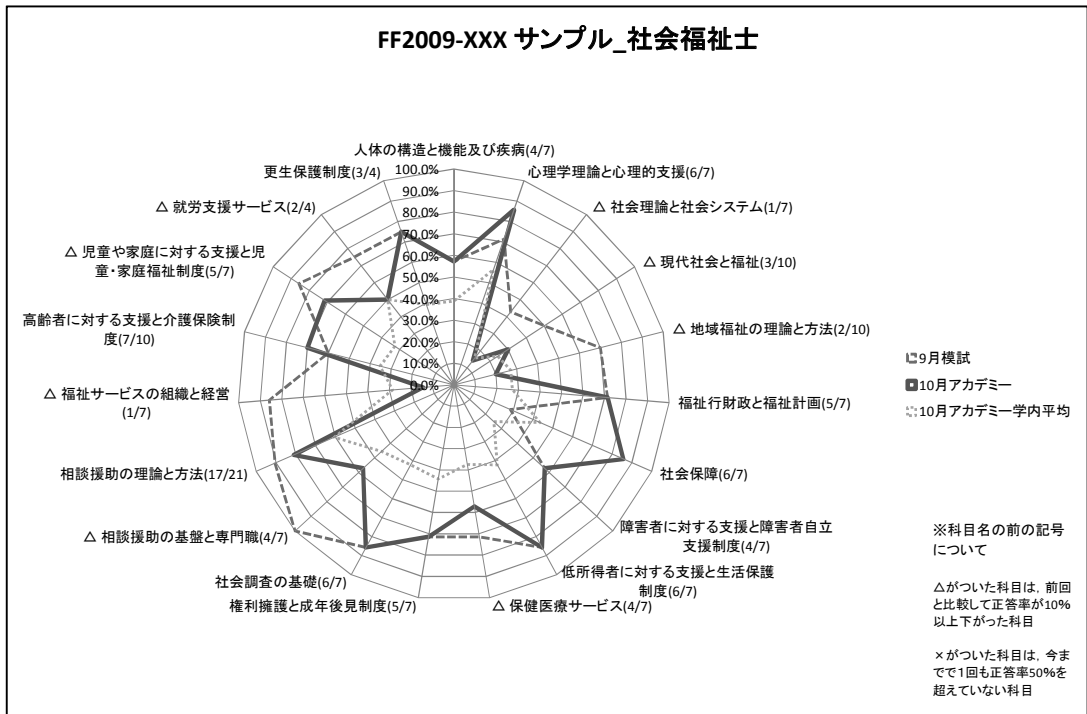


Figure 3 成績管理システムによるフィードバックシート（レーダーチャート）

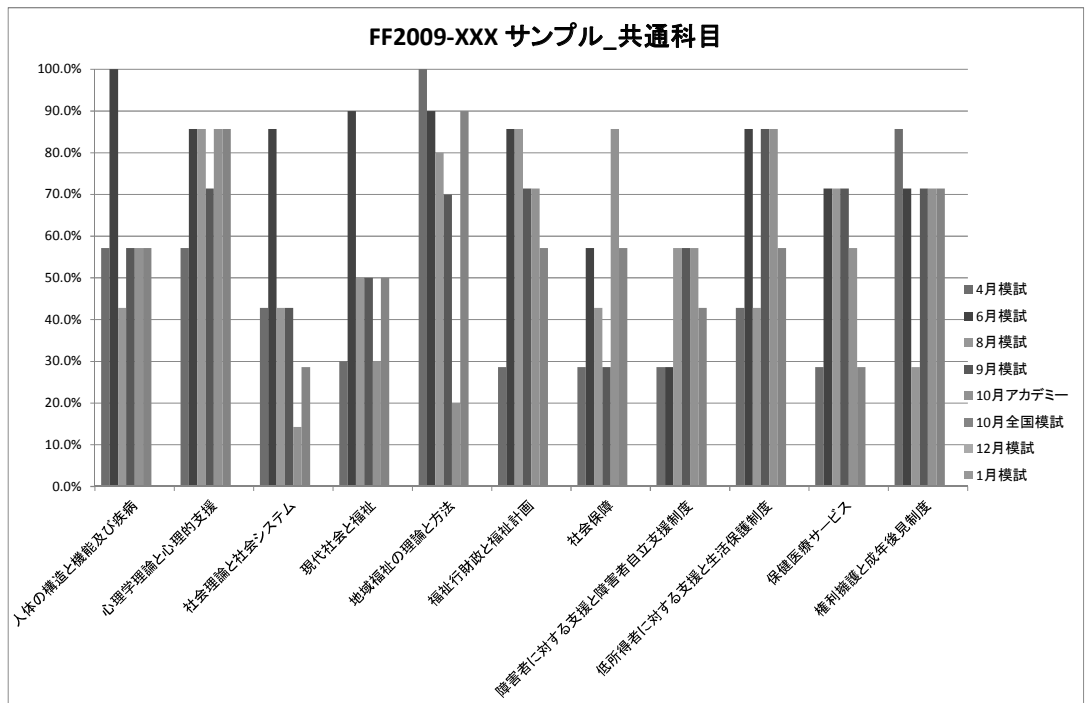


Figure 4 成績管理システムによるフィードバックシート（棒グラフ）

3. 結果

3. 1. 国家試験に向けた学習状況

7月から2月までの国家試験に向けた学習状況について、各質問項目で平均値および標準偏差を算出した（Table 1）。また、国家試験の合格者・不合格者別に、各質問項目の平均値および標準偏差を算出した（Table 2）。

Table 1 国家試験に向けた学習状況結果の基本統計量

	調査時期			
	7月 (n=17)	9月 (n=16)	11月 (n=14)	2月 (n=13)
1. 国家試験に向けた学習を毎日行っている	3.06(1.30)	3.50(1.03)	3.64(1.15)	3.92(0.86)
2. 国家試験に向けてどの科目を重点的に学習したら良いのか悩む	4.00(1.17)	3.56(1.09)	3.64(0.84)	3.69(1.03)
3. 自分の得意科目をはっきりと把握できている	3.00(1.00)	3.25(0.68)	3.43(0.65)	3.69(0.75)
4. 自分の苦手科目をはっきりと把握できている	3.00(1.06)	3.75(0.77)	3.86(0.53)	4.15(0.69)
5. 最近、国家試験に向けた学習へのやる気が低くなることもある	3.29(1.16)	3.25(1.06)	3.21(1.25)	3.92(0.86)
6. 国家試験に向けた学習は順調に進んでいると思う	2.47(0.94)	2.75(0.86)	3.00(1.04)	3.00(1.00)
7. 国家試験に向けて自分で目標を立てながら学習できていると思う	2.47(1.12)	3.06(0.85)	3.21(0.89)	3.23(1.09)
8. 国家試験に向けた学習計画を自分で立てられると思う	2.82(0.95)	3.00(0.82)	3.29(0.91)	3.08(1.12)
9. 国家試験に関して、自信を持って学習できている	2.35(0.86)	2.75(0.86)	2.79(0.89)	3.00(0.91)
10. 模擬試験の結果を踏まえた上で学習計画を立てている	2.65(1.06)	3.25(0.93)	3.36(0.93)	3.85(0.80)
11. 模擬試験の結果から、自分の今の実力をきちんと把握できている	3.12(0.86)	3.19(0.75)	3.50(0.85)	3.92(0.90)
12. 国家試験の全ての科目について、均等に学習するようにしている	2.47(0.94)	2.75(0.93)	2.93(1.14)	3.00(1.08)
13. 今の自分の実力が、高いのか低いのかよくわからない	3.00(1.00)	2.75(0.93)	2.93(1.21)	3.08(0.76)
14. 学習をしても、あまり実力がついた実感が湧かない	3.24(1.03)	3.69(0.95)	3.50(1.02)	3.46(0.97)
15. 国家試験に合格できると思う	3.00(1.12)	3.13(0.89)	3.00(0.88)	2.85(0.90)

注: 括弧内の数値は標準偏差

全体的な傾向としては、「1 国家試験に向けた学習を毎日行っている」、「6 国家試験に向けた学習は順調に進んでいると思う」、「7 国家試験に向けて自分で目標を立てながら学習できていると思う」、「9 国家試験に関して、自信を持って学習できている」が時間経過とともに得点が増加する傾向が見られ、学習状況が良くなっていったことが示された。

また、「3 自分の得意科目をはっきりと把握できている」、「4 自分の苦手科目をはっきりと把握でき

ている」、「10 模擬試験の結果を踏まえた上で学習計画を立てている」、「11 模擬試験の結果から、自分の今の実力をきちんと把握できている」についても、時間経過とともに得点が増える傾向が見られ、徐々に自己理解が進んでいる様子が窺われた。

Table 2 合格・不合格別の国家試験に向けた学習状況結果の基本統計量

	調査時期			
	7月 (n=8,9)	9月 (n=7,9)	11月 (n=7,7)	2月 (n=6,7)
1. 国家試験に向けた学習を毎日行っている	3.38(1.30) 3.00(1.21)	4.00(0.58) 2.93(1.14)	4.29(0.76) 3.00(0.94)	4.00(1.10) 3.78(0.67)
2. 国家試験に向けてどの科目を重点的に学習したら良いのか悩む	3.50(1.41) 4.08(1.00)	3.86(1.21) 3.21(0.89)	3.71(0.76) 3.40(0.97)	3.83(0.75) 3.67(1.22)
3. 自分の得意科目をはっきりと把握できている	3.50(0.76) 3.00(0.85)	3.29(0.95) 3.29(0.47)	3.43(0.79) 3.40(0.70)	3.50(0.84) 3.89(0.60)
4. 自分の苦手科目をはっきりと把握できている	2.75(1.04) 3.33(0.98)	3.57(0.79) 3.71(0.91)	4.00(0.58) 3.60(0.70)	4.33(0.52) 4.00(0.71)
5. 最近、国家試験に向けた学習へのやる気が低くなることもある	3.13(1.13) 3.08(1.00)	3.43(1.13) 3.29(0.91)	3.14(1.46) 3.40(0.97)	4.00(0.63) 3.89(0.93)
6. 国家試験に向けた学習は順調に進んでいると思う	2.50(0.93) 2.58(0.79)	3.00(0.82) 2.57(0.76)	3.57(0.79) 2.50(0.85)	3.50(0.55) 2.67(1.00)
7. 国家試験に向けて自分で目標を立てながら学習できていると思う	2.75(1.16) 2.33(0.89)	3.14(0.38) 2.71(0.99)	3.43(0.79) 3.00(0.82)	3.67(1.03) 2.89(0.93)
8. 国家試験に向けた学習計画を自分で立てられると思う	3.00(0.93) 2.92(0.79)	3.29(0.49) 2.86(0.86)	3.57(0.79) 2.90(0.88)	3.33(1.21) 2.89(0.93)
9. 国家試験に関して、自信を持って学習できている	2.38(0.92) 2.58(0.67)	2.86(0.69) 2.79(0.80)	3.14(0.90) 2.40(0.70)	3.50(0.84) 2.56(0.73)
10. 模擬試験の結果を踏まえた上で学習計画を立てている	3.13(0.99) 2.58(1.08)	3.57(0.53) 3.00(0.96)	3.86(0.69) 2.80(0.79)	4.17(0.75) 3.67(0.71)
11. 模擬試験の結果から、自分の今の実力をきちんと把握できている	3.00(0.93) 3.50(0.67)	3.57(0.53) 2.79(0.80)	3.71(0.49) 3.40(0.97)	4.17(0.41) 3.75(1.04)
12. 国家試験の全ての科目について、均等に学習するようにしている	2.63(0.92) 2.58(0.90)	3.00(1.00) 2.71(0.83)	3.14(1.35) 2.80(0.79)	3.17(1.47) 2.78(0.67)
13. 今の自分の実力が、高いのか低いのかよくわからない	3.13(0.99) 2.50(1.00)	3.00(1.15) 2.86(1.03)	3.43(1.27) 2.60(0.97)	3.50(0.55) 2.67(0.71)
14. 学習をしても、あまり実力がついた実感が湧かない	3.38(1.19) 3.17(0.83)	3.57(0.79) 3.71(1.07)	3.43(0.98) 3.60(0.97)	3.50(0.84) 3.44(1.01)
15. 国家試験に合格できると思う	3.13(1.25) 2.92(0.79)	3.00(1.00) 3.07(0.73)	3.29(0.76) 2.70(0.82)	3.17(0.98) 2.56(0.73)

注：括弧内の数値は標準偏差

注：nの値は合格者数，不合格者数の順で記載

注：上段は合格者，下段は不合格者の基本統計量

国家試験の合格者・不合格者別に検討すると、合格者と不合格者に大きな差が見られた質問項目は、「1 国家試験に向けた学習を毎日行っている」、「6 国家試験に向けた学習は順調に進んでいると思う」、「7 国家試験に向けて自分で目標を立てながら学習できていると思う」、「8 国家試験に向けた学習計画を自分で立てられると思う」、「9 国家試験に関して、自信を持って学習できている」、「10 模擬試験の結果を踏まえた上で学習計画を立てている」、「11 模擬試験の結果から、自分の今の実力をきちんと把握できている」、「15 国家試験に合格できると思う」であった。このような合格者と不合格者に大きな差が見られた質問項目の内容は、学習計画をはじめとした自己学習に対する自信に関する項目が多く、特に国家試験本番が近付いている 11 月以降に自己制御学習がうまく機能している学生が合格しやすい傾向があることが示された。

ただし、「13 今の自分の実力が高いのか低いのかよくわからない」についても合格者・不合格者間で差が見られ、自分の実力に関する判断の確信が不合格者と比較して合格者の方が低い傾向にあった。

3. 2. 学習動機

7 月から 2 月までの学習動機について、充実志向、訓練試行、実用志向、関係志向、自尊志向、報酬志向の 6 因子それぞれの尺度得点について平均値および標準偏差を算出した (Table 3)。また、国家試験の合格者・不合格者別に、各因子の平均値および標準偏差を算出した (Table 4)。

Table 3 学習動機志向の基本統計量

	調査時期		
	7月 (n=17)	11月 (n=14)	2月 (n=13)
充実志向	21.65(3.86)	21.00(3.01)	21.46(3.28)
訓練志向	19.29(3.44)	18.21(4.53)	19.92(4.31)
実用志向	24.76(3.17)	23.07(3.75)	24.31(3.66)
関係志向	14.12(4.27)	13.92(5.99)	14.00(4.56)
自尊志向	15.11(4.89)	15.43(3.63)	15.00(4.34)
報酬志向	16.35(4.57)	17.00(4.08)	16.76(4.99)

注: 括弧内の数値は標準偏差

全体的には時期による大きな変動は見られず、充実志向、訓練試行、実用志向といった学習内容の重要性に関わる学習動機が高い傾向にあったことが示された。

合格者と不合格者との比較では、全体的には高い傾向はあるものの、学習内容の重要性に関わる学習動機、特に充実志向について合格者が高い傾向にあることが示された。また、関係志向、自尊志向、報酬志向といった学習内容の重要性に関わらない学習動機については、相対的に不合格者の方が高い傾向が見られた。

Table 4 合格・不合格別の学習動機志向の基本統計量

	調査時期		
	7月 (n=8,9)	11月 (n=7,7)	2月 (n=6,7)
充実志向	23.50(2.88)	22.57(2.31)	22.50(3.45)
	20.00(4.00)	19.43(2.94)	20.57(3.11)
訓練志向	20.50(2.67)	18.71(6.14)	19.33(5.92)
	18.22(3.83)	17.71(2.56)	20.42(2.79)
実用志向	26.75(2.92)	23.43(3.31)	24.67(2.73)
	23.00(2.29)	22.71(4.39)	24.00(4.51)
関係志向	14.25(4.20)	14.14(5.27)	13.33(3.93)
	14.00(4.58)	13.71(5.31)	14.57(5.29)
自尊志向	15.25(4.06)	15.00(4.08)	13.00(4.34)
	15.00(4.36)	15.86(3.39)	16.71(3.82)
報酬志向	16.50(4.93)	16.57(4.31)	14.83(4.83)
	16.22(4.52)	17.43(4.12)	18.43(4.65)

注: 括弧内の数値は標準偏差

注: nの値は合格者数, 不合格者数の順で記載

注: 上段は合格者, 下段は不合格者の基本統計量

Table 5 フィードバックの活用状況結果の基本統計量

	調査時期		
	9月 (n=16)	11月 (n=14)	2月 (n=13)
1. 模擬試験結果のグラフによって, 得意な科目の把握がしやすくなった	3.69(0.70)	3.64(1.15)	3.85(0.80)
2. 模擬試験結果のグラフによって, 苦手な科目の把握がしやすくなった	4.19(0.54)	3.71(1.20)	3.77(1.01)
3. 模擬試験結果のグラフによって, 受験勉強の計画が立てやすくなった	3.31(0.95)	3.43(0.85)	3.69(1.03)
4. 模擬試験結果のグラフによって, 受験勉強に対するやる気が強くなった	3.31(0.95)	3.36(1.01)	3.54(0.78)
5. 模擬試験結果のグラフを受験勉強に活用している	3.19(0.91)	3.07(1.07)	3.85(0.99)
6. 模擬試験結果のグラフによって, 今の自分の実力が把握しやすくなった	3.69(0.60)	3.57(0.94)	3.92(0.76)
7. 模擬試験結果のグラフによって, 成績の伸びがわかりやすくなった	3.38(0.81)	3.50(0.94)	3.92(0.95)
8. 模擬試験結果のグラフによって, 国家試験に対する自信がついた	2.94(1.00)	2.57(1.09)	3.15(0.69)
9. 時々模擬試験結果のグラフを見返している	2.81(1.28)	3.07(1.14)	3.46(1.05)

注: 括弧内の数値は標準偏差

3. 3. 成績管理システムによるフィードバックの活用状況

9月から2月までの成績管理システムによるフィードバックの活用状況について、各質問項目で平均値および標準偏差を算出した（Table 5）。また、国家試験の合格者・不合格者別に、各質問項目の平均値および標準偏差を算出した（Table 6）。

成績管理システムによるフィードバックの活用状況については、全体的に高い得点が得られており、国家試験に向けた学習を進める上で活用され自己理解や学習意欲を促進していた状況が示された。

合格者と不合格者との比較では、「9 時々模擬試験結果のグラフを見返している」について不合格者よりも合格者の得点が高かった。また、「5 模擬試験結果のグラフを受験勉強に活用している」については、2月時点では不合格者の方が高い得点であったものの、その他の時期では低い得点であった一方、合格者は時期によらず一貫して高い得点であった。このことから合格者は成績管理システムによるフィードバックを国家試験に向けた学習に長期的に活用していた傾向にあることが示された。

一方で、「1 模擬試験結果のグラフによって、得意な科目が把握しやすくなった」「2 模擬試験結果のグラフによって、苦手な科目の把握がしやすくなった」「6 模擬試験結果のグラフによって、今の自分の実力が把握しやすくなった」といった項目の得点については、不合格者の方が高い傾向が見られた。

Table 6 合格・不合格別のフィードバックの活用状況結果の基本統計量

	調査時期		
	9月 (n=7,9)	11月 (n=7,7)	2月 (n=6,7)
1. 模擬試験結果のグラフによって、得意な科目の把握がしやすくなった	3.43(0.53) 3.89(0.78)	3.43(1.27) 3.86(1.07)	3.67(0.52) 4.00(1.00)
2. 模擬試験結果のグラフによって、苦手な科目の把握がしやすくなった	4.14(0.38) 4.22(0.67)	3.43(1.40) 4.00(1.00)	3.67(1.03) 3.86(1.07)
3. 模擬試験結果のグラフによって、受験勉強の計画が立てやすくなった	3.14(1.07) 3.44(0.88)	3.43(1.13) 3.43(0.53)	3.67(1.03) 3.71(1.11)
4. 模擬試験結果のグラフによって、受験勉強に対するやる気が強くなった	3.29(0.76) 3.33(1.12)	3.14(1.21) 3.57(0.79)	3.50(0.84) 3.57(0.79)
5. 模擬試験結果のグラフを受験勉強に活用している	3.43(0.79) 3.00(1.00)	3.43(1.13) 2.71(0.95)	3.67(1.03) 4.00(1.00)
6. 模擬試験結果のグラフによって、今の自分の実力が把握しやすくなった	3.71(0.49) 3.67(0.71)	3.29(0.95) 3.86(0.90)	3.83(0.75) 4.00(0.82)
7. 模擬試験結果のグラフによって、成績の伸びがわかりやすくなった	3.29(0.95) 3.44(0.73)	3.29(1.11) 3.71(0.76)	4.17(0.75) 3.71(1.11)
8. 模擬試験結果のグラフによって、国家試験に対する自信がついた	2.57(0.79) 3.22(1.09)	2.86(1.07) 2.29(1.11)	3.33(0.82) 3.00(0.58)
9. 時々模擬試験結果のグラフを見返している	3.14(1.46) 2.56(1.13)	3.43(1.40) 2.71(0.76)	3.50(1.22) 3.43(0.98)

注：括弧内の数値は標準偏差

注：nの値は合格者数，不合格者数の順で記載

注：上段は合格者，下段は不合格者の基本統計量

3. 4. 学習動機と学習状況・フィードバック活用状況の相関

学習動機が国家試験に向けた学習状況や成績管理システムによるフィードバックの活用状況にどのように関係しているかを検討するために、相関係数を求めた (Table 7, Table 8)。その際、データ数の不足を補うために、全ての調査時期のデータを1つのデータセットにまとめ、調査時期の要因を排除した相関係数を算出した。その結果、国家試験に向けた学習状況との相関係数についてはn=44、成績管理システムによるフィードバックの活用状況についてはn=27となった。

有意な相関係数が得られた部分について見てみると、充実志向、訓練試行といった学習内容の重要性に関わる学習動機の高さは、国家試験に向けた学習の実施や計画、自己理解、成績管理システムによるフィードバックの活用状況と関連していることが示された。その一方で、関係志向、自尊志向、報酬志向といった学習内容の重要性に関わらない学習動機および実用志向は国家試験に向けた学習状況や成績管理システムによるフィードバックの活用状況とあまり関連性が見られなかった。

Table 7 学習動機志向と国家試験に向けた学習状況の相関

n=44	充実 志向	訓練 志向	実用 志向	関係 志向	自尊 志向	報酬 志向
1. 国家試験に向けた学習を毎日行っている	0.34*	0.24	0.11	0.21	0.02	0.11
2. 国家試験に向けてどの科目を重点的に学習したら良いのか悩む	-0.12	-0.03	0.10	-0.07	-0.05	0.06
3. 自分の得意科目をはっきりと把握できている	0.26	0.45*	0.28	0.19	0.24	0.29
4. 自分の苦手科目をはっきりと把握できている	0.08	-0.08	-0.10	-0.08	-0.14	-0.11
5. 最近、国家試験に向けた学習へのやる気が低くなることもある	-0.12	0.16	0.29	-0.15	0.04	-0.06
6. 国家試験に向けた学習は順調に進んでいると思う	0.12	-0.06	-0.27	0.13	-0.10	-0.05
7. 国家試験に向けて自分で目標を立てながら学習できていると思う	0.47*	0.42*	0.00	0.42*	0.08	0.22
8. 国家試験に向けた学習計画を自分で立てられると思う	0.41*	0.32*	0.00	0.27	0.09	0.17
9. 国家試験に関して、自信を持って学習できている	0.12	-0.13	-0.34*	0.19	-0.07	-0.09
10. 模擬試験の結果を踏まえた上で学習計画を立てている	0.28	0.00	-0.04	0.17	0.06	0.05
11. 模擬試験の結果から、自分の今の実力をきちんと把握できている	0.35*	0.27	0.16	0.15	0.14	0.14
12. 国家試験の全ての科目について、均等に学習するようにしている	0.29	0.48*	-0.11	0.40*	0.34*	0.22
13. 今の自分の実力が、高いのか低いのかよくわからない	-0.08	-0.22	-0.29	-0.22	-0.34*	-0.34*
14. 学習をしていますが、あまり実力がついた実感が湧かない	-0.22	-0.26	0.04	-0.19	-0.15	-0.06
15. 国家試験に合格できると思う	0.08	-0.20	-0.20	0.03	-0.14	-0.15

注：*付の値は5%水準で有意

Table 8 学習動機志向とフィードバックの活用状況の相関

n=27	充実志向	訓練志向	実用志向	関係志向	自尊志向	報酬志向
1. 模擬試験結果のグラフによって、得意な科目の把握がしやすくなった	0.11	0.28	0.17	0.12	0.10	0.06
2. 模擬試験結果のグラフによって、苦手な科目の把握がしやすくなった	0.34	0.46*	0.24	0.31	0.20	0.34
3. 模擬試験結果のグラフによって、受験勉強の計画が立てやすくなった	0.34	0.36	0.04	0.28	0.25	0.23
4. 模擬試験結果のグラフによって、受験勉強に対するやる気が強くなった	0.10	0.46*	-0.04	0.22	0.15	0.10
5. 模擬試験結果のグラフを受験勉強に活用している	0.44*	0.38	0.04	0.38	0.18	0.19
6. 模擬試験結果のグラフによって、今の自分の実力が把握しやすくなった	-0.01	-0.24	-0.11	-0.03	0.00	-0.13
7. 模擬試験結果のグラフによって、成績の伸びがわかりやすくなった	0.30	0.54*	0.41*	0.12	0.08	0.18
8. 模擬試験結果のグラフによって、国家試験に対する自信がついた	0.16	0.32	-0.20	0.26	0.13	-0.05
9. 時々模擬試験結果のグラフを見返している	0.56*	0.52*	0.36	0.23	0.18	0.21

注:*付の値は5%水準で有意

4. 考 察

国家試験に向けた学習状況や成績管理システムによるフィードバックの活用状況については、全体的に高い得点を示している傾向が見られた。また、合格者・不合格者別に見てみると、不合格者と比べて合格者は、学習計画をはじめとした自己学習に対する自信が高く、成績管理システムによるフィードバックを国家試験に向けた学習に長期的に活用していた実態が示された。つまり、合格者は国家試験に向けた学習を行っていた時期全体で、効果的に自己制御学習を行っていたことが示唆された。一方で、成績管理システムによるフィードバックでの自己理解の促進効果については不合格者の方が高いという結果が得られた。このことは、合格者は自己理解に関して、成績管理システムによるフィードバックのみに依存せず、様々な形で学習の進捗状況について自己評価を行っており、相対的に成績管理システムによるフィードバックによる自己理解の効果が不合格者よりも低かったという状況が考えられる。

学習動機については、全体的に時期による大きな変動は見られず、充実志向、訓練志向、実用志向といった学習内容の重要性に関わる学習動機が高い傾向にあったことが示された。また、合格者・不合格者別に見てみると、不合格者と比べて合格者は、学習内容の重要性に関わる学習動機、特に充実志向について合格者が高い傾向にあることが示された。また、関係志向、自尊志向、報酬志向といった学習内容の重要性に関わらない学習動機については、相対的に不合格者の方が高い傾向が見られた。このことは、学習内容の重要性に関わる学習動機を持つことが国家試験の合格に重要であることを示

唆している。この背景には、学習内容の重要性に関わる学習動機を持って学習を行う場合、深い理解を伴った学習を行うため、精緻化や体制化といった記憶方略を使用することとなり、記憶の中に定着しやすくなったことが考えられる。

また、学習動機と自己理解との相関について、充実志向や訓練志向といった学習内容の重要性に関わる学習動機は、国家試験に向けた学習の実施や計画、自己理解、成績管理システムによるフィードバックの活用状況と有意な正の相関が見られる傾向があった。このことは、学習内容の重要性に関わる学習動機が自己理解ひいては自己制御学習を効果的に行うことに関連していることを示しており、上述の国家試験の合格における重要性を支持した結果であると考えられる。

以上の結果から、国家試験での合格を目指すための指導において、学習内容の重要性に関わる学習動機を向上させるような介入の必要性が示唆されたと言えよう。

5. 本研究の問題と今後の展望

本研究の大きな問題点として、統計的・要因計画的観点から鑑みると、頑健な結論が得られないことが挙げられる。最終的に分析対象となったデータ数が少なく、統計的検定による差の検討が行えず、統計的に有意な結果であるか否かが明確となっていない。引き続きデータを収集することによって、本研究の結論が頑健な知見であるかを検討していく必要がある。

また本研究は、学習動機について学習内容の重要性に関わる学習動機の重要性を指摘したが、それをどのように高めていくかについては明らかにできていない。今後、さらに学習内容の重要性に関わる学習動機への介入方法を検討していくことによって、さらなる国家試験に向けた望ましい学習を行うための支援体制を整えていく必要がある。

引用文献

市川伸一 1993 認知カウンセリングとは何か 市川伸一編著 学習を支える認知カウンセリング——心理学と教育の新たな接点—— ブレーン出版, Pp.9-33.

Zimmerman, B. J. 2004 Sociocultural influence and students' development of academic self-regulation : A social-cultural perspective. In D. M. McInerney & S. Van Etten (Eds.), *Big theories revised*. Greenwich, CO : Informatin Age Publishing. pp.139-164.

A study of the relation between self-comprehension and motivation in students who learning for success in the national examinations

Yoshihiro Oouchi Izumi Iwata Kaori Yamazaki

Abstract

The purpose of the present study was to examine the relation between self-comprehension and motivation in students who learning for success in the national examinations for social worker and psychiatric social worker. According to “2 factors model”(Ichikawa, 1993), motivation to learn constructed two cognitive factors: orientation to learning content and immediacy of consequences. This study analyzed how motivation to learn related to self-comprehension, and compared successful applicants' motivation to learn with unsuccessful ones.

The results were as follows: (1) learning content oriented motivation positively correlated with self-comprehension, and (2) successful applicants had higher learning content oriented motivation than unsuccessful ones. These results suggest importance of learning with learning content oriented motivation for students who learning for success in the national examinations.

Key words: self-regulated learning, motivation, 2 factors model, self-comprehension, the national examinations